

## 緩和ケア病棟

# さとわ

No.7

### 緩和ケア病棟「郷和」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

## 郷和、この1年

施設長 桜井 金三

本年は昨年のように入院を長期間お待たせすることも比較的少なく病棟を運営することができました。そんな中でご迷惑をおかけしたのは、スタッフが足りなくて、2-3日入院を待っていただくことがたびたびあったことです。2名の新しい看護師を迎えた反面、関連病院への異動（長年郷和を軌道に乗せるために尽力された小庄司さんが異動・転勤されました。長い間ありがとうございました）や退職があって、スタッフ増にはなりませんでした。医師不足・看護師不足が新潟では続いており、何とかならないかと思う日々が続きます。

緩和医療学会の緩和ケアに従事する専門医制度が発足しました。郷和は研修施設の認定を受けることができました。実際にはまだ研修を始めた医師はおりませんが、県内の研修病院とも連携して、研修医師を受け入れていく予定です。ご希望の医師の皆様のご連絡をお待ちしております。一方、新潟県内看護師の研修は、成功裏に終

了しました。体制も整ってきましたので、来年以降も続けていきます。

地域の医師との連携については、まだまだ試行錯誤の段階ですが、本年は、休日夜間の入院依頼に応えることが数回ありました。時間外で入院をお受けするのは大変なことで、スタッフに苦勞をかけることになりましたが、これからはこのようなことも増えていくと思われ、普段から準備していくことが必要になっております。

ボランティアさんには、新しいメンバーも加わり、日々さわやかな風を吹き込んでいただいております。さらなる新メンバーの獲得に努めたいと思います。

郷和も丸8年が経過し、地域に確固たる地位を築けたと考えております。ホスピス・緩和ケアがますます求められている今日、さらにケアの内容を充実させ、地域の「ホスピス・緩和ケア」の拠点としての役割を果たしていきます。

## 「郷和で働かせていただいて」

### 南部郷厚生病院・緩和ケア病棟「郷和」 看護師 渡辺 文子

私は、新潟市内の病院の医療療養病棟で働きながら、郷和で1年間ボランティアをして、今年の4月から看護師として働いています。

私がボランティアをするようになったきっかけは、知人が家族を看取って良かったと話していた郷和のボランティア募集の案内が当時の新津広報に掲載されたことと、すでにボランティアをしていた友人が誘ってくれたことでした。

その時のボランティアは、数人で、病室の入り口や、ホールにお花を生けたり、3時のお茶の時間に好みの飲み物をお部屋に届けたり、ホールにこられた、患者さんやご家族の仲間に入れていただいたりしていました。また、月に1回は、お花見や初釜など季節の行事があったのですが、他の病院で働きながらのボランティアだったため、ほとんど出席できませんでした。私がさせていただいたことといえば、クリスマスツリーの後かたづけや、フルーツコンサートを皆様と共に楽しませていただいたことくらいです。ボランティアの時の郷和の印象は、看護師がベッドの横に腰掛けてお話を聴いたり、3時のお茶を一緒にしていたり、病院の庭で患者さんとシャボン玉をしていたり、なんとゆったりしたところかというものでした。同じ病院でも、次から次へと業務に追われる当時の私の勤め先とは全く違っていました。医師も白衣を着ておらず、自分の椅子を持って、すーっと病室にはいっていきることがあり、何も知らない人は、医師だとは思わないだろうなどと思ったりしていました。

実際に働いてみて、印象と大きく違ったことが、3つあります。その1つは、緩和病棟でも、入退院を繰り返す人がいるということです。私は、ここは、最期をその人らしく過ごすところで死亡退院だけだと、勉強不足で勝手に思っていたところがありました。ところが、実際には、在宅療養をしておられた方が、苦痛が強くなって入院され、苦痛をコントロールして再び在宅に戻られるケースもありました。また、緩和外来があり、入院相談だけでなく、病棟の医師、看護師が対応し、医師の訪問診療もされています。

2つめは、ケアの対象が患者さんだけではなく、同じウエイトでご家族のこともケアしていることです。患者さんが辛いのはもちろんですが、辛そうにしている患者さんを目の当たりにしているご家族も、本当に心が痛むことでしょう。できるなら、代わってあげたいと思われることもあるでしょう。ですから、その人の持つ苦痛の緩和を最優先に行います。どのような病状であっても、今そこにある苦痛が和らいでこそ、体にも心にも、見守るご家族にもゆとりが生まれます。ゆとりをもてるようになって初めて、何がしたいかどうしたいか考えることができるようになるのです。ご家族からも「楽そうにしているから安心です」と、何度言われたか分かりません。

さらに、ベッドのまま屋外に散歩に出ること、行事に参加すること、看護師が3時に患者さんやご家族とお茶をすることは、ボランティアとして携わっていた時は、余裕があって何気なくやっているように見えていた事ですが、それは、とんでもない間違いでした。1日にすることはたくさんあり、1日の中でスタッフが患者さんの状態をみて時間を作り出して、苦痛を最小限にしながらチャンスを



逃さず行っているのです。ベッドで病院の庭に出て桜を見た患者さんが、看護師が折った桜の枝を見てほほえみ、その笑顔を見て本当に嬉しそうにしておられた娘さんもいました。その看護師は、桜の枝を何本も折り、桜だけでなく花壇の花まで摘んで患者さんと娘さんに1本また1本と届けていました。私の目にはその看護師が一番喜んでるように見えました。それは緩和ケア認定看護師の小池さんです。そんなとき、私が心の中で思ったことは、えーっ、お花採っちゃっていいの、花壇にはいっちゃっていいのなんて、常識的なことでした。その方は、ほどなく、天に召されました。娘さんは、母と桜をみられて良かったですと言われ、帰られました。当時、私は働いて数週間で緊張の連続の日々を過ごしており分からなかったのですが、患者さんとご家族にとって豊かに過ごしていただく貴重な瞬間だったのだと、今は思います。さりげない中に意図的に関わる大切さを日々学んでいる私です。

最後、3つめは、ボランティアの方々の存在が大きいということです。私がボランティアをさせていただいたのは短い期間で、ボランティアがどのような存在か考えたこともありませんでした。しかし、患者さんのお部屋に出入りするたびに、入り口に生けられたお花を見て、元気をもらったり、優しい気持ちになったりしています。ボランティアさんが持ってきてくれたお花だなあ、どんな思いで、このお花を選んでくださったのかなあなどと思うのです。ボランティアさんの存在は特別です。多少具合が悪くても、3時のお茶の時間にホールの「憩いの間」にでることを、楽しみにしている患者さんもいらっしゃいます。また、毎月の行事もボランティアさんの協力なしにはできません。11月、そば打ちの時にも、おそばをゆで、天ぷらを揚げ、盛りつけから後かたづけ、何から何まで笑顔でしてくださいました。貴重な存在のボランティアの皆様はこの場を借りてお礼を申し上げます。

新人職員の感じたままを書かせていただきました。郷和にお世話になって、あっという間に8ヵ月が過ぎました。緩和ケアに携わせていただく者として、必要なケアをさせていただくことは当然ですが、患者さんに対しても、ご家族に対しても、看護師としてだけでなく、ひとりの人間としてのありがたが、とても大切だと思われています。

歳はとっているものの、緩和ケア技術も人間的にも未熟で、患者さんやご家族にも迷惑をおかけしているところが多くあります。このような私を、私の知るところ知らないところで、先輩方が助けてくださっていることを感謝しています。成長の遅い私ですが、患者さんとご家族に少しでも喜んでいただけるように、努力していきたいと思えます。これからもどうぞよろしく願いいたします。

## 水墨画



10月28日（水）水墨画の行事を開催しました。

3名の演奏者による親しみのある演奏や、音楽に合わせて水墨画を描くパフォーマンスを見たりキーホルダーを作ったり、患者さまやご家族にも大変好評でした。

## 「信頼を築きたい」

医療相談員 清野 聡子

緩和ケア病棟「郷和」で相談業務の担当を始めてから2年が経ちました。「郷和」での相談業務は、地域の社会資源の紹介や福祉制度の活用についての相談に加え、患者さんご家族の苦痛に対面し、援助しなければなりません。身体的な痛み、心の痛み、社会的な痛みを医療スタッフ、ボランティアの方とともに、時には「喜び」に、時には「分かち合い」に変えていけたらと思っています。

私が第一に心がけていることとしては、初診同伴、つまり患者さんやご家族が初めて「郷和」を訪れ相談においでになる際は、同伴することです。これから始まるケ

アの第一歩であり、患者さんとそのご家族がこれまで辿った道筋での思いや状況などを少しでも理解・把握したいと思うのです。私自身のとまどいも多くまだまだ課題は残されていますが、まずは患者さんご家族と信頼ある環境づくりからと思っています。

豊かな自然環境に囲まれた「郷和」が、患者さんご家族の心を癒し、明日への活力、原動力へと繋がる場所となるよう努力したいと思います。

### 「郷和」利用状況

(H. 20年4月～H. 21年3月)

入院患者数	148名
一日平均入院利用者数	17.4名
平均病床利用率	87.1%
平均在院日数	44.5日

発行年月日 平成21年12月14日

編集・発行 南部郷厚生病院

緩和ケア病棟「郷和」

〒959-1704 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL (0250) 58-6111(代) FAX (0250) 58-7300